

日曜に考える

医療

患者の目



4年前の7月。中小企業家同友会全国協議会の総会に出席するため北海道に向かった。新千歳空港に着くと体の内側が熱くて痛い。たまたま札幌市内の病院で診察を受けた。すると医師から思いもしなかった病名を告げられた。「がんかもしれない」

愛媛県中小企業家同友会専務理事 鎌田 哲雄氏 ①

以上。前立腺がんのステージ4で、多発骨転移もみられると診断された。

男性の場合、前立腺がんは胃がんに次いで罹患（りかん）者が多いがんだ。5年生存率は90%を超えると言われるが、ステージ4だと状況は厳しい。

医師からは、手術も放射線治療もできないので、内分泌療法（ホルモン療法）しか打つ手はないといわれた。前立腺がんは、男性ホルモン「アンドロゲン」が影響して病気が進行するので、アンドロゲンの分泌や働きを妨げる薬を投与するのがホルモン療法だ。

説明を受けて病院を後にした。頭に浮かんだのは、仕事をどうしようか、ということだった。当時、愛媛県中小企業家同友会の専務理事。大阪の法律事務所でも働いていた時に知人に誘われ、1985年に縁もゆかりもない愛媛県に来た。以来、中小企業の振興に尽力してきた。

がんと共に働く道選ぶ

しかし、仕事を続けることは無理だと考えた。前立腺がんと診断された1週間後、同会の代表者を集めて「辞めたい」と切り出した。「迷惑がかかる」。このことで頭はいっぱいだった。

しかし代表者の方々からは「迷惑はからん」と反対された。そして、「本当にもやらないことは何ですか？」と聞かれた。

それまで仕事一筋で妻には迷惑をかけたとの思いもある。子供も大きくなり、妻と2人で旅行に出かけた。だが、このまま辞めていいものか。「同友会を設立した」創業者なんだからまっとうしなさい」。服部豊正・服部製紙会長の言葉で踏ん切りがついた。

私はがんとともに働く道を選んだ。

かまだ・てつお 1957年、大阪府生まれ。85年愛媛県中小企業家同友会の設立に伴い事務局長に就任。現在は専務理事。愛媛大法文学部非常勤講師も務める。